

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101374		
法人名	医療法人 誠仁会 吉徳医院		
事業所名	ぐるーぷほーむ 木ー Aユニット		
所在地	滋賀県大津市里五丁目2番60号		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570101374&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成23年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 若い職員が多く、皆 基本理念実現を目標に、より良いケアとは何か?と日々考え実践している。</p> <p>② 利用者の方々への敬意の気持ちを忘れず、丁寧な言葉遣い、対応を徹底している。</p> <p>③ 開設時より、身体拘束は絶対禁止を貫いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は田園地にあり閑静な住宅地に隣接している。近くには銀行やJA、市役所支所、公民館がありバス停からも1分と近い。母体の病院、デイサービスセンター、デイケアセンター、ショートステイが同じ敷地にあり連携したサービスが行なわれている。食事をする食堂、安らげる居間、床の間付の和室など普通の家のような構造になっている。調度品はこだわりのサイドボードや食器棚が置かれ落ち着いた雰囲気である。サイドボードには亡くなった利用者の写真を飾り月1回供養を行なっている。職員はゆっくり利用者に寄り添い一人ひとりのニーズと願望に応えられるよう心がけている。月2回専門の先生による音楽療法を行なっている。職員はデイサービスやショートステイから異動した人もいて勤続年数は長い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念としてはないが、法人の理念として、地域密着型サービスの意義に則ったものがあり、職員一同 日々理念のより深い理解に努めつつ業務にあたっている。	グループ全体の理念として「地域に密着した質の高い医療・福祉サービスの提供・・・」と謳い、グループホームの玄関に基本理念と運営方針を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在の利用者の状況や立地的条件を考慮すると、限界はあると思われる。現在、運営推進会議に参加頂いている民生委員を通じて事業所としての自治会参加を打診中。地域行事への招待参加や保育園、ボランティアとの繋がりはある。	運営推進会議に9月から民生委員が出席するようになった。家族の住む地域の民生委員が利用者の長寿祝を届けに来たりと少しずつ交流が進んでいる。自治会加入の必要性は理解しているが加入できていない。	引き続き自治会加入への働きかけを行なうとともに、さまざまな機会を利用して利用者と地域との関係を深めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月にて滞ることなく開催しており、管理者・現場代表・参加可能な家族・地域包括担当者・地域からの有志に参加頂いている。議題によっては、防火責任者や医師にも参加依頼している。	年6回開催、参加者は入居者家族、包括支援センター職員、民生委員、ホーム管理者、評価機関のナルク会員である。内容は事業報告、震災時の避難場所や食糧の備蓄、外部評価の結果報告などである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時 地域包括支援センター担当者と連絡を取り、情報交換・交流を行っている。隔月開催の運営推進会議にも毎回ご参加頂いている。	包括支援センターの職員は運営推進会議に出席してグループホームの実情やケアサービスの取り組みを把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来の法人全体の共通理念として、身体拘束は原則行わない旨 職員一同取り組んでおり、ご家族様にも説明しご理解いただいている。	玄関や庭への出口などは施錠していない。職員は車椅子に常時乗せている事は拘束になると理解し、移動の時のみ使用している。利用者に寄り添うことで行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修も計画しており、職員も事業所内外での虐待に常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、制度を利用されている利用者様がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等を先にお渡しし内容を確認いただき、後日 実例を踏まえ説明・質疑応答に応じ、理解・納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では勿論のこと、日常的に要望や意見をいただけるよう、ご本人及びご家族への問い掛けは欠かさず行っている。	年1回の家族会や運営推進会議で重度化する中での個別ケアの充実、災害時の対応や医療などを検討している。ご意見箱を設置している。苦情対応の概要を書面にし、担当者の電話番号も記載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催。その際に管理側からの課題だけでなく、現場での課題も自由に話し合い、職員の意見を聞く機会も設けている	毎月職員会議を行っている。職員とリーダー、管理者はお互いに考えや意見を言える関係である。職員の要望で同業者との交流や研修を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度末に正職員全員対象にて自己評価を実施、それに基づき管理者・リーダーとの面談・評価を実施。その評価を昇給の評価に反映する仕組みを試験的に導入した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を積極的に推進・バックアップしている。必要に応じ、研修等への参加も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海GH協議会に事業所として参加、研修会への職員参加等推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集に努め、ご本人に合った生活支援を熟考したうえで、信頼関係構築と不安軽減に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議以外でも、出来る限りご家族とは積極的にコミュニケーションするよう努め、そのなかで、情報交換や意見交換を率直にできる関係づくりに日々努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人他事業所も含め、状況に合ったサービスにより適切な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共同して生活し、より身近な人間として喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力無しには本人の望まれる生活への支援は難しいと考えている旨ご家族様には説明しており、都度相談し、協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所は、そのような連絡・訪問を積極的に受け入れ、継続していけるよう支援している。	職員の支援で行きつけの美容院等に行く利用者もいる。家族、親族の訪問が多い。他の地域から大津市に転居後間もなく入居している人が多いため馴染みの訪問は少ないが気軽に訪れやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った方々での活動の機会・環境設定を配慮・推進している。その際、コミュニケーションの円滑化を図る努力も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡をとり、必要に応じ相談・援助を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの都度の要望には勿論のこと、困難な場合でも行動や生活歴 ご家族からの情報収集により推測し、検討・実践できるよう努めている。	入所時の家族からの情報や日ごろ利用者により深く寄り添うことで、暮らし方の希望や意思を把握し、意向に沿うよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の情報は元より、認知症発症以前や可能な限り若かりし頃の情報収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の職員の気付いたことを、業務日誌や申し送りにて職員全員が情報共有しケアの実践につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・ミーティングのみならず、日々の申し送りでも状態変化や今後の課題を話し合い、ご家族の意見も踏まえ、ご本人の意に添えるようなプラン策定に心掛けている。	入所時に家族からの情報や利用者の健康状態を基に介護計画書を作成している。利用者と代理人の承認印をもらっている。介護計画は3か月ごとに見直し、状態に変化があるときは随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のみならず、業務日誌や独自の個別ケア実践表に記入。担当者が定期的に内容確認し、必要に応じプランに反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隔週にて、奈良より音楽療法士を招聘し、音楽療法を個別・集団双方のアプローチにて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性があれば、積極的に活用したい。現在は、対象者がおられない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体となる吉徳医院との情報共有を密にしている。利用者の急な変化等にも迅速に医師の指示をあおげる体制がある。	本人家族と相談の上、母体の吉徳病院をかかりつけ医としている。日常の受診はそこで行なっている。専門病院、歯科医院、リハビリには職員が送迎している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	吉徳医院の看護職との情報共有も日々行い、随時の報告・相談も含め、連携を密にとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設診療所と病院との「病診連携システム」にてスムーズに行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に個々に方針を相談し、併設診療所の医師とも相談・連携しつつ、状態に応じて臨機応変に対応している。	入居の際に希望があれば看取り介護をする旨を話し、重要事項説明書別紙で終末医療(看取り)の同意書に署名捺印を貰っている。今年は1人看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状をふまえた対応・処置等の確認・周知を都度行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。地域との協力・連携強化は今後の課題である。	消防署の指導で年2回消防訓練を実施している。スプリンクラーの設置は完了し、夜間想定避難訓練もしている。自動警報システムを押すと同時に7人の職員に連絡される。入居者家族の連絡網もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々に対する言葉は、法人全体として敬語等敬意の感じられる言葉以外認めていません。	利用者への言葉づかいは丁寧である。申し送りは口頭または連絡ノートで行ない利用者の目に着かないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な思いを汲み取ることを重視する旨職員一同徹底し、日々取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必要に応じご家族に相談・協力を仰ぎ、支援の幅を広げつつ、出来る限り希望に添えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類の購入 理美容等、ご本人の嗜好や楽しみとして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材使用に心掛け、個々の好物・要望に応じて 毎日のおやつや食事時の一品にて随時の調理や購入手配を行っている。また、能力に応じて共に購入・作業することに心掛けている。	日常の食事は共同調理場で作っている。職員と一緒に食事をしている。おやつや行事食は献立、買い物、調理を利用者と職員と一緒に考え作っている。年に1回は全員揃ってホテルで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養管理、チェックシートを使つての 職員による水分摂取量の把握・管理を徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員 毎食後、それぞれの能力に応じた形で口腔ケアの支援を行っている。その際、現状確認は元より、今後予想される状態にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力 おむつやパット等を使わず、トイレでの排泄を基本とし定時・随時の誘導にて自立に向けたケアを考えている。	昼間は利用者の排泄パターンを把握してトイレに誘導している。声かけは個々に合わせて行っている。夜間はリハビリパンツで1名のみ布パンツが可能である。できるだけ布パンツの利用者を増やすよう努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて、水分・食事・運動量や乳製品の活用等考慮しケアに当たっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯に関しては、必ずしも個々人の希望に添いきれているとは言えないが、出来る限り配慮している。入浴の際は、マンツーマンにて個人浴槽にてゆったり入って頂いている。	2日に1回の入浴を基本に体調に合わせて入浴している。利用者に職員が付き添って入浴している。入浴の時間帯は基本的に午後であるが、毎日入浴する利用者で希望により夜間になることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活リズムの把握 及び必要に応じてコントロールを行い、体調やその日の状態に応じて配慮、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、頓服薬含め全ての服薬情報の確認・把握し管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴の情報収集に努め、出来る限り 経験・特技・嗜好を活かし 継続出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や楽しみ・意欲に繋がる支援を目指し、且つ個々の嗜好にも配慮し出来る限り外出の機会をもてるよう努めている。	普段は職員の付き添いで事業所内の広い庭を散歩している。たまには周辺の住宅地に出ることがある。大型ショッピングセンターやトールペイント展に出かけたり、初詣や秋には紅葉狩りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を勘案し、可能な範囲にて金銭管理は支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じ、電話連絡は日常的に支援しており、毎日ご家族と連絡を取り合っておられる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、趣の異なる形態を多用途配置し、間取りやレイアウトも閉塞感を感じさせないよう配慮している。	廊下や風呂場や玄関は広く清潔に保たれている。和室や食堂、居間などもゆったりとして落ちついた雰囲気である。庭は広くバーベキューができる洋風の場所や日本庭園など変化に富んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人・グループ・家族として過ごして頂けるよう多用途の共用スペースを配置して、状況に応じて使い分けられるような環境を備えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あくまで本人の居心地のよさを重視し、家具・物品等は出来る限り以前から使っている使いなれたものをお持ち頂いている。	居室は利用者の家と考えている。実費負担により床をカーペットに張り替えている利用者もいる。同様に利用者の好みで壁紙の張り替えもできる。長椅子や冷蔵庫を置いている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あくまで自立に向けた環境設定を重視すると同時に、危険だからと短絡的に排除することなく見守りの徹底にて安心・安全な環境づくりに努めている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	緊急災害時を想定した安全確保のため仕組み作り・取り組みを強化する必要がある。	有事の際、迅速かつ円滑な対応が出来る。日常業務においても、常に緊急時を想定し対応できるよう職員の意識付けができる。	法人全体での訓練だけでなく、木一単独での訓練を実施計画する。その際、地域住民との連携も重要であるので、地域との協力体制構築・強化を進める。	12ヶ月
2	13	外部研修への参加は積極的に推進しているが、参加者から他職員への報告が不十分なため、全体への周知・情報共有が出来ていないことがある。	全職員での知識・情報共有できることにより、職員の資質向上に繋がり、ケアの充実及び統一を図ることができる。	外部研修直後の職員会議にて、研修参加者からの報告機会を設け、内容報告や参加者の考察を踏まえ検討・議論できる機会を設ける	6ヶ月
3	49 (18)	日常的な個々人の希望・要望や潜在的ニーズに応えきれてはいない。	個別ニーズに基づいた、効果的関わり・活動・外出を行える機会を充実できる。	個別ケア計画策定及び実践状況を記録し、継続的に実践・見直しを各担当者を中心に行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。